

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年7月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	2570101218
法人名	愛和ホーム株式会社
事業所名	グループホーム愛和
所在地	〒520-0001 滋賀県大津市蓮池町13-10 (電 話) 077-521-0123

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年7月19日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】(19年6月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 6月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 9.4	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	450 円	昼食 700 円
	夕食	850 円	おやつ 食費に含む 円
	または1日当たり		2000 円

(4) 利用者の概要(6月22日現在)

利用者人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	6名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79歳	最低 70歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小泉医院 光吉歯科 ひかり病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

琵琶湖の近隣で、駅からも近く、静かな住宅街に立地しています。入居者は、自然に触れながら、趣味のことや、家事をしながらのんびりと暮らされています。「わたしがわたしらしくここでのんびり たのしくらす」の理念は、法人の基本理念をベースに、入居者と職員が、思いを込めて作りました。入居者を主体に、心地よく過ごされることを第一に考え、常に希望を聞きながら、ケアされています。意思確認が困難な方にも、表情や目も動きを見逃さずに、コミュニケーションをとられています。ホームでは、講師を招いての勉強会や、外部研修等、学ぶ機会が大変多く、職員のスキルアップと、より良いケアに役立つようにと取り組まれています。災害についても、毎月避難訓練をしたり、家具が倒れないように工夫したり、避難経路を確保する意味で、家具の配置を考えたりと、日頃から十分な備えをされています。運営推進会議をとおして、地域とも良好な関係が築かれてきたところです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価で話し合ったことは、ホームでの振り返りのきっかけになりました。運営推進会議で報告したり、評価結果は、ファイルにして玄関に設置しており、訪問された方には、何時でも見てもらうことができます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員一人ひとりに、自己評価シートを渡し、それぞれが、自己を、振り返り、考えながら取り組んだものを、一つにまとめた項目と、日にちと時間を決めて、全員で意見や気付きを出し合いながら取り組んだ項目があります。職員一人ひとりが自己評価に取り組むことで、日々のケアを評価し、自ら改善点を知ることができ、有意義な機会となりました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、民生委員、地域包括センターの職員、家族、退去された入居者の家族、ホームが集まり、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催しています。ホームの取り組みや、認知症についての話をしたり、参加者からは様々な意見や質問も聞くことができました。そこからの働きかけで、地域の行事のお誘いも頂ける様になり、顔なじみの関係ができてきたところです。災害についての話し合いでは、ホームの機能を活かして、地域の避難場所としての役割を担うことになりました。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、何時でも気軽に意見や、希望を言って頂けるように接しています。相談ごとには、すぐに対応もしています。よくしてもらっているという遠慮から、言い難い事もあると感じるので、今後は、定期的に項目をたてたアンケートを実施する等、ホームからのアプローチが求められます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の地藏盆や夏祭り、障害者施設の行事に参加しています。自治会にも参加し、顔なじみの関係もでき、自治会長が、お仲間を誘って、ホームで詩吟を披露して下さった際には、近隣のグループホームにも声をかけ、盛大なものになりました。今後は、ホーム主催の夏祭り等の行事にも、地域の方々に来所頂けるよう、積極的に働きかける予定です。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「わたしがわたしらしく ここで のんびりくらす」の理念は、法人としての基本となる理念をベースにして、入居者と職員が、分かりやすい言葉に置き換えたものである。その理念を、入居者が墨字で書かれ、各ユニット、多目的ホールに掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りの際には、唱和し、確認しあっている。日々、「その人らしく暮す」ということを、具体的に話し合い、職員間での共有の思いとなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の地蔵盆や夏祭り、障害者施設の行事に参加している。自治会にも参加し、顔なじみの関係もできてきた。自治会長が、お仲間を誘って、ホームで詩吟を披露して下さった。今後は、ホーム主催の夏祭り等の行事にも、地域の方々を積極的に誘いするつもりである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、日にちを決めて、職員全員で取り組んだ。職員一人ひとりが自己評価に取り組むことで、振り返ることができ、自ら改善点を知ることが出来、有意義な機会となった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地域包括センターの職員、家族、退去された入居者の家族、ホームが集まり、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。ホームの取り組みや、認知症についての話をしたり、参加者からは様々な意見も聞くことができた。そこからの働きかけで、地域の行事の誘いも頂ける様になった。		

グループホーム愛和

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	唐崎地域のケア会議、大津市主催の、情報提供会に参加し、地域の情報をもらったり、意見交換している。大津市とは、密に連絡をとり、ホームの運営に活かしている。市社協が発行する、新聞に記事を載せたこともある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた手紙を同封している。また行事報告や、近況を載せ、写真入の愛和通信と、愛和だよりも発行している。家族とは、年三回の交流会を持ち、様々な意見や希望にも対応している。遠方の為、訪問の少ない家族には、電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関には意見箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。家族には、気軽に話していただけるように気を付けている。	○	ホームからのアプローチとして、定期的に家族アンケートを実施されてはどうでしょうか。言い難い事等も文書で項目を作れば、伝えやすくなるのではないのでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動の場合は利用者、家族に丁寧に説明をして、同意を得ている。馴染みの関係作りに配慮し、変わりなく同じケアが提供出来るようにと考えている。移動の際には、ダメージが少ないように、一人ずつの交代にとどめている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでは、外部、内部とも多くの研修の機会を利用し、順次参加できるようになっている。新人研修も行っている。受講した研修は、ホーム内での勉強会として、伝達研修をし、共有を図っている。2ヶ月に一度は、講師を招いて研修を開催していて、全員参加している。学ぶ機会は多く、職員のステップアップにつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議では、情報交換したり、動向を教えてもらったりしている。近隣のグループホームとは、一緒に、行事をしたり、勉強会を開催したりで、密に連絡を取り合っている。職員同士も行き来し合い、お互いの良い点を吸収でき、気付きも多くなる。		

グループホーム愛和

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、必ず見学に来てもらい、他の入居者と一緒に過ごしてもらい、ホームの雰囲気を感じてもらっている。本人の思いを、大切に受け止め、入居してもいいかなという気持ちになってもらえるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で、お知恵を拝借する場面も多く、梅干作りや味噌作り等、入居者に教えてもらいながら取り組んだ。職員の知らないことを、たくさん教えてもらえ、一緒に作業する中で、得意なことや好きなことをしている時の表情には、笑顔が多く見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に希望を聞いている。意思確認が困難な方には、表情や目も動きを見逃さずに、望んでいることを把握している。その方にあった方法で、コミュニケーションがとれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用して、アセスメントし、長期目標、短期目標を記載した個人別のケアプランを作成している。成果が現れやすく、ホームでの生活に密着した計画になっている。家族の訪問の際には、意見や希望を聞いている。主治医や看護師からの意見も反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は、3ヶ月に一度の見直しで、状態の変化にはすぐに対応している。カンファレンスやミニカンファレンスも開催し、職員で話し合い、計画の評価、モニタリングを行い、再アセスメントにつなげている。評価やモニタリングの結果も家族に伝えている。		

グループホーム愛和

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域対象の、認知症についての勉強会や、地域の介護相談の窓口としての役割を認識し、ホームの機能を活かした取り組みをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に、継続して診てもらっている方や、ホームの連携医師に、診てもらっている方等、希望にそっている。通院の際には、職員が付き添っている。通院が困難になった場合は、相談の上、往診医に変えてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向などをあらかじめ把握しその時になれば、家族や、主治医、看護師と相談の上、ケアしている。職員間では、ミニカンファレンスや、申し送りノートで共有を図り、ケアにあたっている。ターミナルケアの研修も行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失敗の際には、各居室での対応し、プライバシーには十分に配慮している。トイレ介助の際には、必ず戸を閉め、タオルで覆ったりして、羞恥心に配慮している。ミーティング等で、自分に置き換えて、ということを考えて行動するように注意を促している。	○	排泄の際の声かけには、他の入居者が気付かないように、十分な注意が求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に希望を聞き、ケアしている。意思確認が困難な方には、選択肢を用意し、わかりやすい言葉で話しかけることで、意思を表してもらえる時がある。入居者のペースを尊重し、職員主導にならないように心がけている。		

グループホーム愛和

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、職員が考えているが、入居者の希望のメニューに変えることもできる。食材は配達だが、入居者と一緒に買い物に行ったりして、食べるだけでなく、作る過程も大切にしている。調理を手伝ってくださる方や、家庭菜園でできた野菜を収穫してくださる方等、できることをしてもらっている。食事風景は、同じ食卓を囲み、楽しそうな雰囲気であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から、夕方5時半くらいまでなら、自由に選んでもらい希望を尊重して、ゆっくりと入浴してもらっている。お風呂の好きな方には、毎日でも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	犬の散歩や、買い物での外出、家庭菜園での野菜作り、裁縫等、生活の中で、得意なこと、好きなことをしてもらえるように支援している。お習字は展覧会へ出品できるほどの腕前である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物での外出は、毎日であり、行事として、買い物ツアーで、普段とは違う物を買いに出かけたり、外食等、毎月行っている。自治会の行事にも参加している。今後は、一人ひとりの、行きたい場所に行ってもらえるよう、個別外出をしたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はほとんど、鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。玄関の開閉の際には、音が出るようにしていて、玄関前には事務所があるので、外へ出られるとすぐにわかる。	○	職員の手薄な時間帯には、やむを得ず鍵を掛ける時もあるが、その際の同意を家族にもらっておくことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に一度、避難訓練を行っている。家具類も地震で倒れないように固定し、避難経路を確保する為に、家具の配置も再考した。運営推進会議でも話し合い、ホームを地域の避難場所として開放することになった。備蓄の用意もしている。		

グループホーム愛和

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士がいて、一日約1500カロリーのバランスの取れた食事が提供されている。食事摂取量、水分摂取量も把握し、記録に残している。摂取量の気になる方には、医師に相談し、野菜を多くしたり等で気を付けている。水分は、ジュースにしたり、ゼリーにしたりと工夫している。栄養バランスやカロリーについての勉強会も行った。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーであり、家具類も家庭的なものを揃えている。装飾品も趣味よく、壁には絵画や、写真、入居者の習字が掛けられてある。庭に咲いた花が、テーブルに活けられていて、リビングが明るく華やいだ感じになっていた。犬や猫も飼っており、入居者の癒しに役立っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい物を揃えるのではなく、使いなれたなじみの物を持ってきてもらい、好みの装飾品を置いたりして、その人らしい、居心地のいい居室作りをされている。		